

令和5年度 長吉西中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

<国語>

全国の平均正答率と本校を比較すると-11.8ポイントとなる。また、全国の平均無解答率と比較すると-10.4ポイントという結果となった。

中でも、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率が-5.6ポイントと一番全国に値が近く、逆に、「我が国の言語文化に関する事項」は全国より-16.9ポイントという結果となった。その他の「情報の扱い方に関する事項」は-9.5ポイント、「話すこと・聞くこと」は-10.9ポイント、「書くこと」は-10.7ポイント、「読むこと」では-15.1ポイントとなつた。

<数学>

全国の平均正答率と比較すると-11ポイントとなる。また、全国の平均無解答率と比較すると-5.6ポイントという結果となった。

中でも、「図形」の平均正答率が-7ポイントと一番全国に値が近く、逆に、「関数」は全国より-15.1ポイントという結果となった。その他の「数式」は-9.2ポイント、「データの活用」は-13.5ポイントとなつた。

<英語>

全国の平均正答率と比較すると-8.6ポイントとなる。また、全国の平均無解答率と比較すると-4.9ポイントとなる。

中でも、「聞くこと」の平均正答率が-7ポイントと一番全国に値が近く、逆に、「書くこと」は全国より-10.5ポイントという結果となった。その他の「読むこと」は-8.9ポイントとなつた。

<質問紙調査>

「いじめはどんな理由があってもいいことだと思う」を「当てはまる」と解答した割合を、全国と本校を比較すると2.6ポイント上回った。「人の役に立つ人間になりたいと思う」を「当てはまる」と解答した割合も、全国平均を2.1ポイントも上回った。

さらに、「友達関係に満足している」を「当てはまる」と解答したのは4.1ポイント、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます)」で「4時間以上」に「当てはまる」と解答した割合も+2.8ポイント上回った。普段(月曜日から金曜日)、平均して何日学校の部活動に参加していますか?に「5日」と解答した数字も6.2ポイントも上回った。

○

○中学生チャレンジテスト(3年生)

○
(国語) 大阪府平均と比較すると-4.3無回答率は+2.9ポイントであった。学習指導要領の領域等別平均点を見ると、言葉の特徴や使い方に関する事項では-1.5ポイント、情報の扱い方に関する事項では-0.5ポイント、我が国の言語文化に関する事項が-0.8ポイントとなっており、知識及び技能の点では大きな差は無かつた。話すこと・聞くことについては-1.0ポイント、書くことは-0.3ポイント、読むことは-1.0ポイントで、思考力・判断力・表現力等についても大きな差は無かつた。(社会) 大阪府平均と比較すると-7.2無回答率は+1.7ポイントであった。学習指導要領の領域等別平均点を見ると、地理的分野が-4.9ポイント、歴史的分野が-2.3ポイントになっており、歴史に比べ地理が課題である。また、評価の観点別平均点を見ると、知識・技能が-5.7ポイント、思考・判断・表現が-1.5ポイントとなっているおり、知識・技能については課題である。(数学) 大阪府平均と比較すると-4.8無回答率は+2.2ポイントであった。学習指導要領の療育等別平均点を見ると、数と式が-1.8ポイント、図形が-1.1ポイント、関数が-1.2ポイント、データの活用が-0.6ポイントとなっており、数と式が課題である。評価の観点別平均点を見ると、知識・技能が-2.9ポイント、思考・判断・表現が-1.9ポイントであった。(理科C) 大阪府平均と比較すると-5.1無回答率は+2.6ポイントであった。学習指導要領の領域等別平均点を見ると、エネルギーは-0.7ポイント、粒子は-1.3ポイント、生命は-2.1ポイント、地球は-0.9ポイントで大きな差は無い。評価の観点別平均点で見ると、知識・理解が-3.6ポイント、思考・判断・表現が-1.5ポイントであった。知識・理解の点が課題である。(英語) 大阪府平均と比較すると-10.7無回答率は+4.1ポイントであった。学習指導要領の領域等別平均点を見ると、聞くことが-1.5ポイント、読むことが-3.1ポイント、書くことが-5.0ポイントと書くことが大きく開いており課題である。評価の観点別平均点を見ると、知識・理解が-6.0ポイント、思考・判断・表現が-4.7ポイントになっており、共に課題である。

【今後に向けて】

勉強面では全国平均と比較すると、厳しいところが目立つ。しかし、人として大切な思いやりの心が育っている生徒が多いように見受けられる。

今後、国語では新聞や文章を読む機会を作ったり、自分の考えや意見をまとめて書く練習する必要がある。数学では関数、データの活用を中心に、さまざまな問題に取り組む機会を多く作る必要がある。英語においても、特に書くことを中心とした問題に取り組む時間を多くとるよう、努めていく。

3年生チャレンジテストについては、各教科とも正答率が大阪府平均を下回っており、無回答率についても大阪府平均を上回っている。特に社会科が-7.2ポイント英語科が-10.7ポイントと大きく差があり課題である。各教科とも昨年度と比較すると大阪府平均との差が大きく広がっているが、同一母集団ではないことを考慮するとともに、生徒用のタブレット端末や液晶プロジェクター等のICT機器を有効に活用するとともに、習熟度別少人数授業の効率を高めるなど工夫を凝らしながら基礎学力の定着を図る。各教科においてチャレンジテストの結果を細かく分析し、今後の具体的な改善策を模索しながら授業力のUPを進める。生徒から見て「わかる授業」「楽しい授業」と生徒が感じられるような授業の創造を目指す。